

3 - 6 関東地方の地殻変動 Crustal Movements in the Kanto District

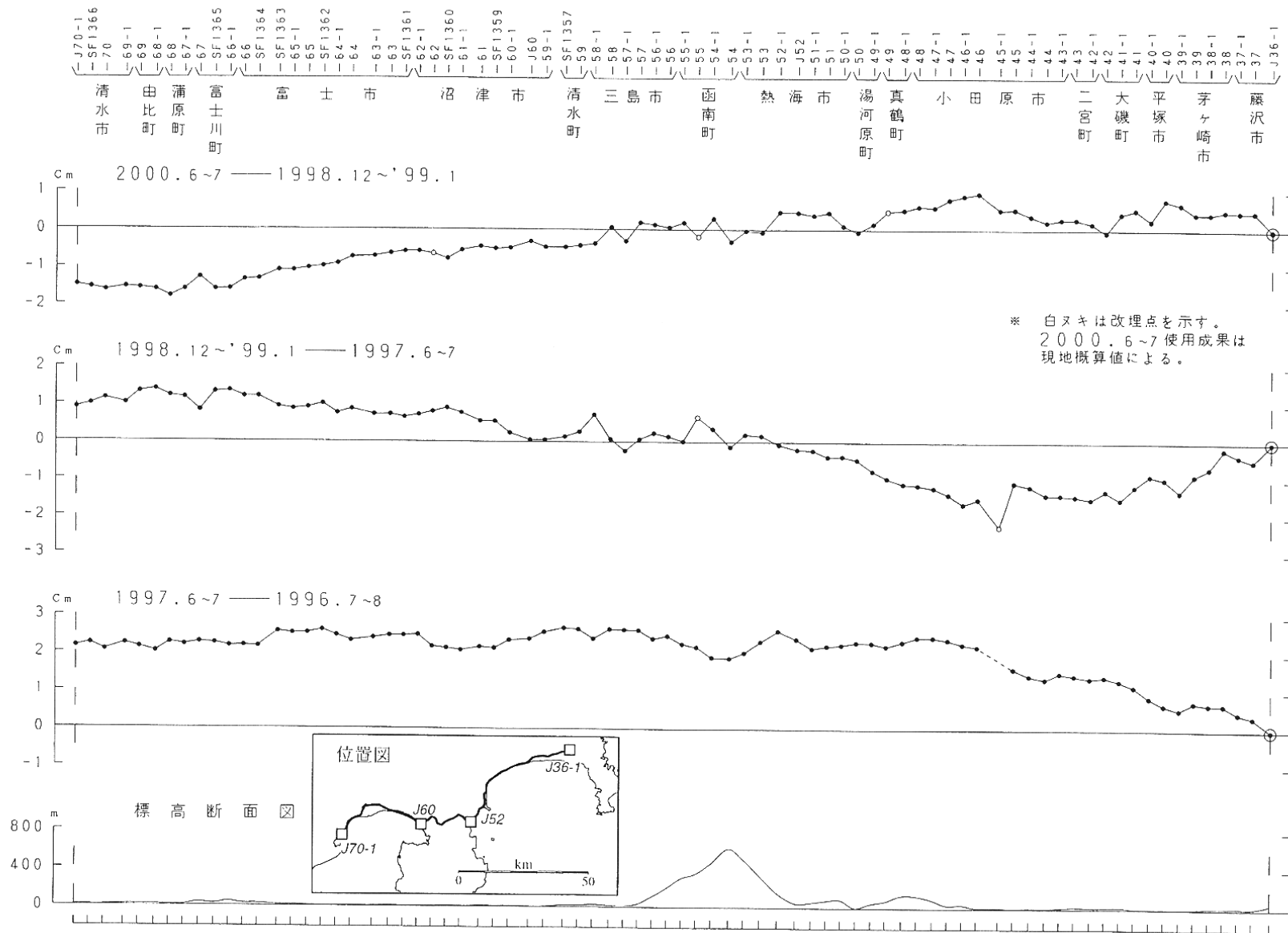
国土地理院
Geographical Survey Institute

第1図は、清水市～熱海市～藤沢市間の水準測量による1999年1月～2000年6月間の上下変動である。藤沢市に対して清水市側が約2cm沈降しているが、前回結果(1997年7月～1999年1月)とちょうど逆のパターンとなっており、特に大きな変動はなかったと考えられる。

第2図～第6図は、房総半島南部の水準測量結果である。第2図～第5図は、個々の路線における上下変動、第6図は、網平均による各点の最近3年間の上下変動(富津固定)である。この地域は2000年夏の伊豆諸島の地震・地殻活動の影響で水平変動が発生したことがGPS観測等によって確認されているが、水準測量結果は、顕著な上下変動は発生していないことを示している。

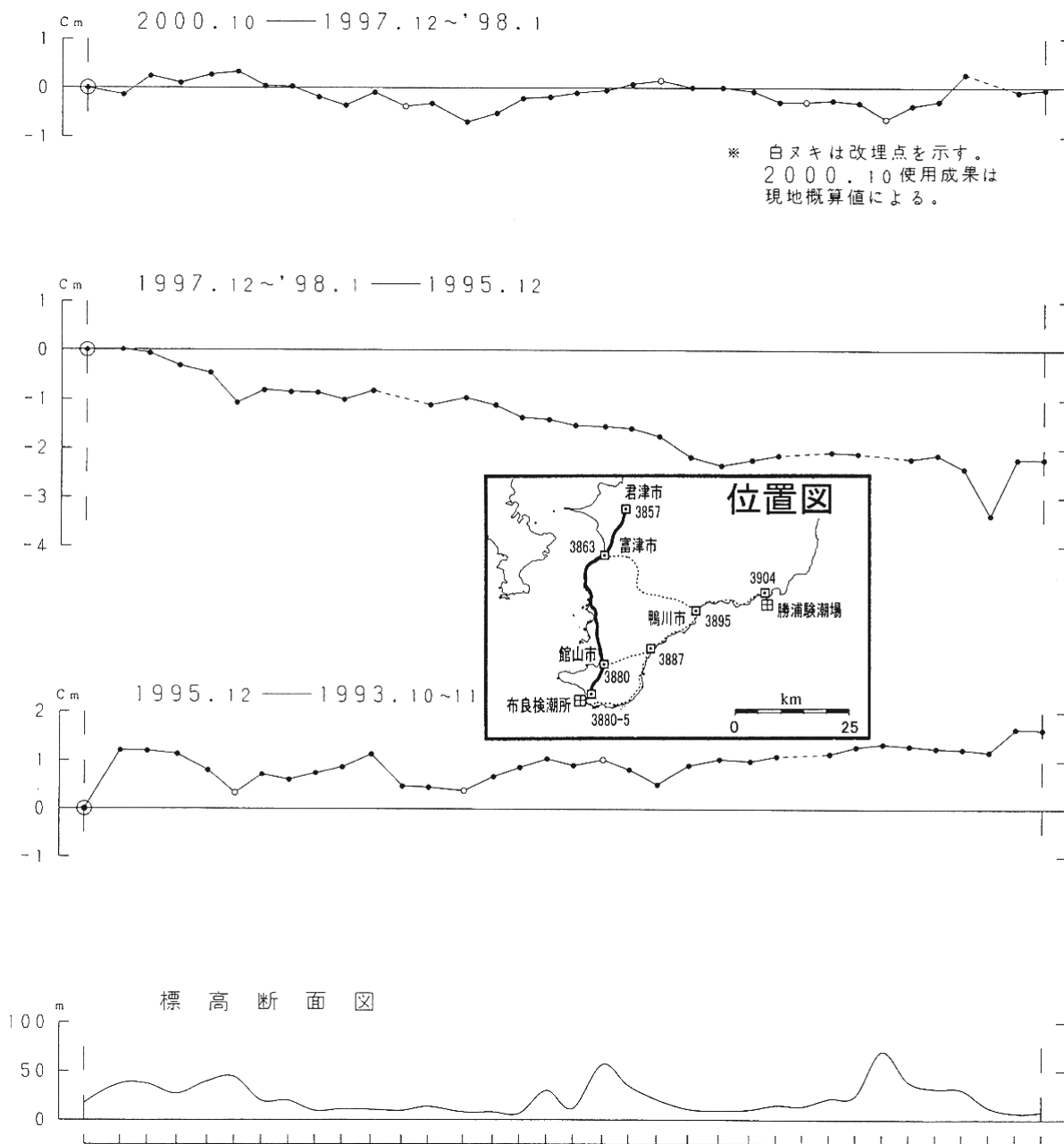
第7図は、関東地方の駿潮場の月平均潮位差である。特に大きな傾向の変化は見られない。

第8図は、鹿野山精密辺長測量結果である。1995年の破線で示す時点で鹿野山の器械点の場所が変更されており、データの継続性はないことに注意を要する。南北および北西-南東方向の基線はほぼ単調に縮んでいるが、東西基線は最近伸びに転じたように見える。



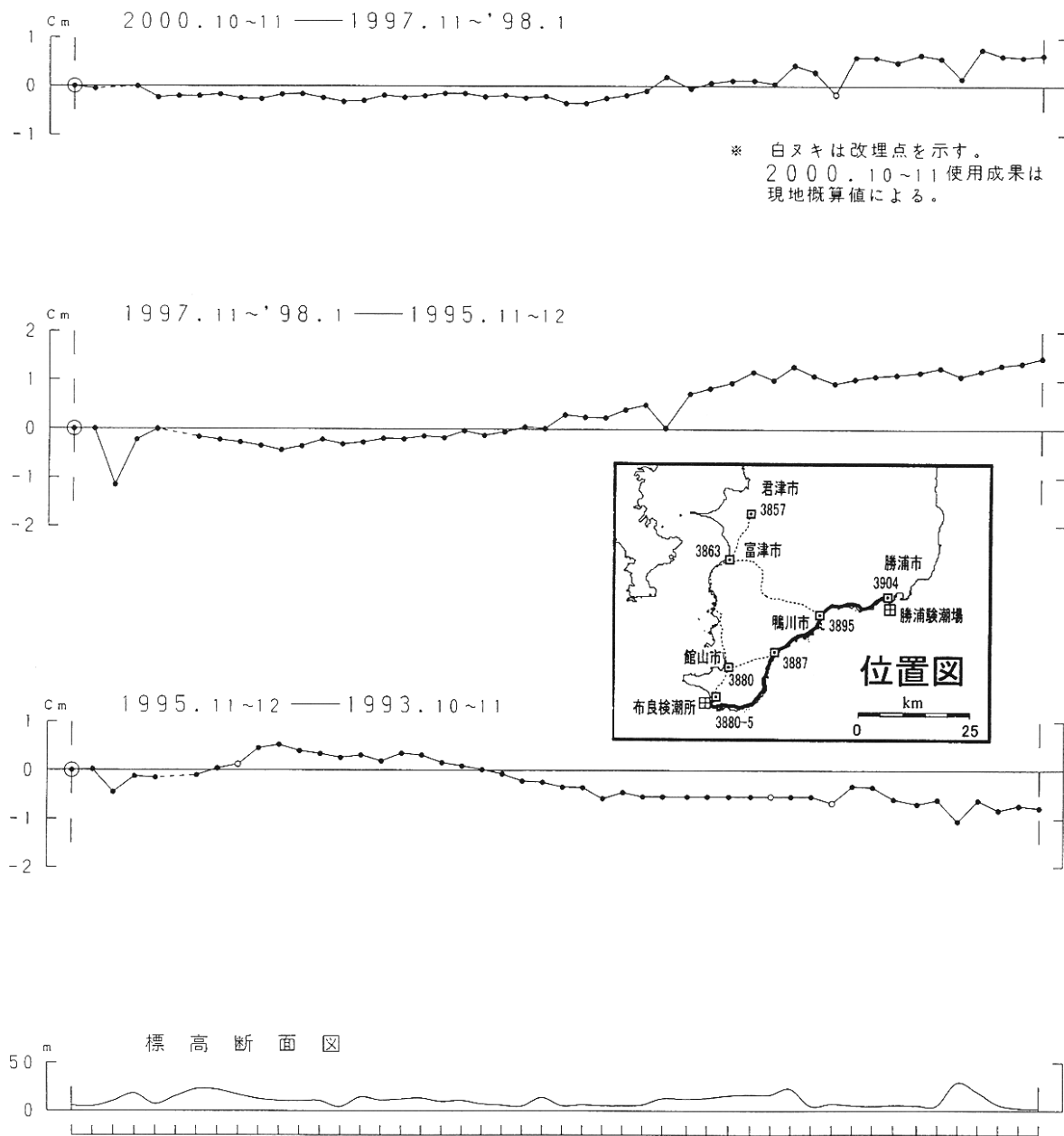
第1図 清水市～藤沢市間路線水準測量結果

Fig.1 Results of precise leveling along the route between Shimizu and Fujisawa.



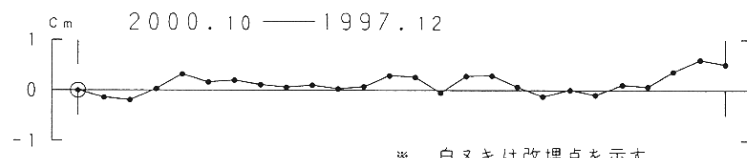
第2図 房総半島南部水準測量結果（君津～館山）

Fig.2 Results of precise leveling in the Southern part of Boso peninsula (From Kimitu to Tateyama).

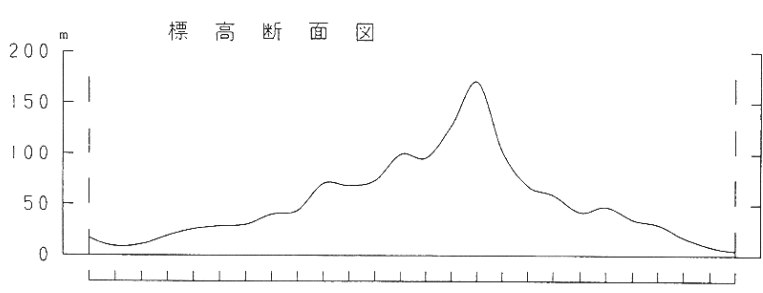
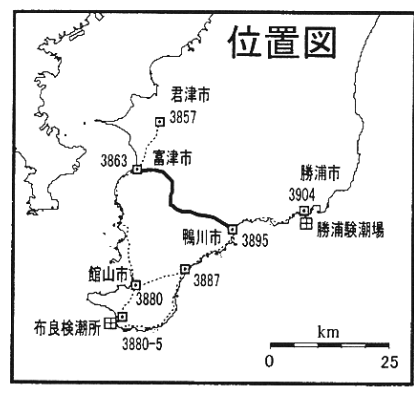
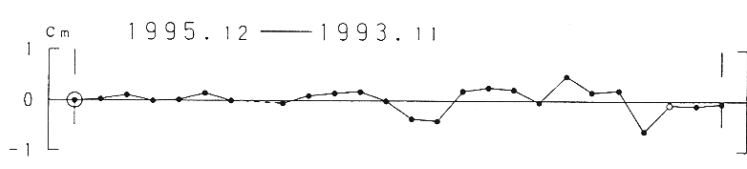
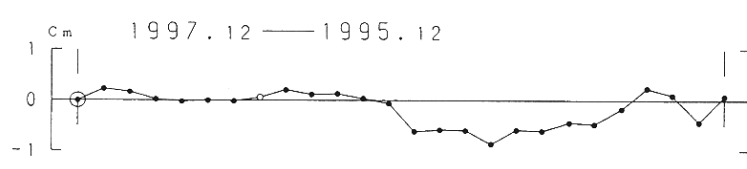


第3図 房総半島南部水準測量結果（館山～勝浦）

Fig.3 Results of precise leveling in the Southern part of Boso peninsula (From Tateyama to Katsuura).

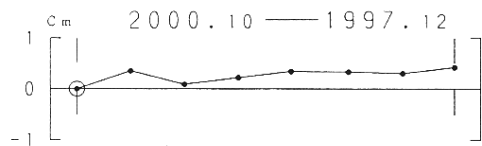


※ 白ヌギは改埋点を示す。
2000.10 使用成果は
現地概算値による。

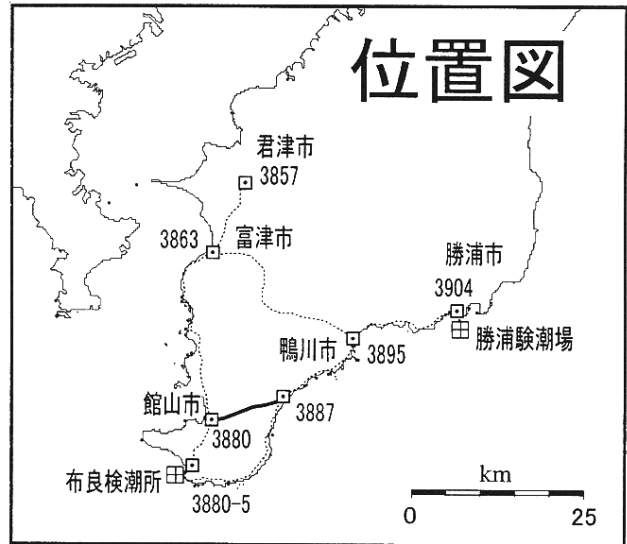
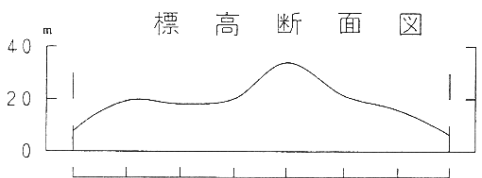
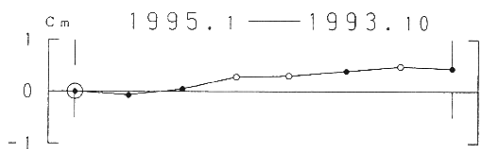
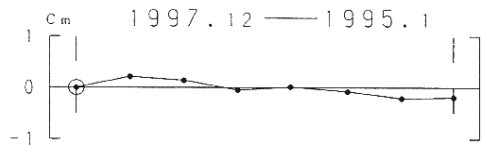


第4図 房総半島南部水準測量結果 (富津～鴨川)

Fig.4 Results of precise leveling in the Southern part of Boso peninsula (From Futtsu to Kamogawa).

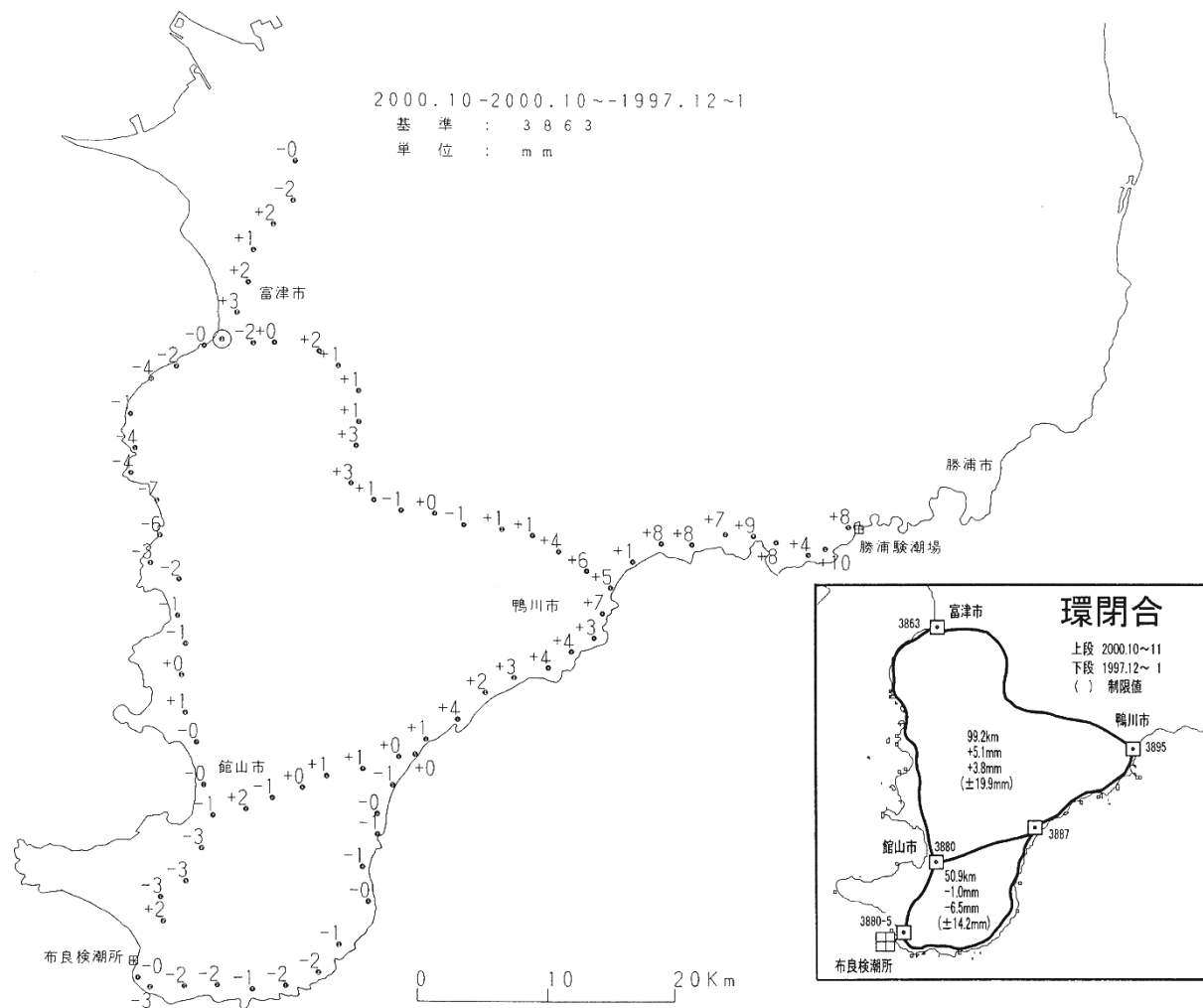


* 白ヌギは改埋点を示す。
2000.10使用成果は
現地概算値による。



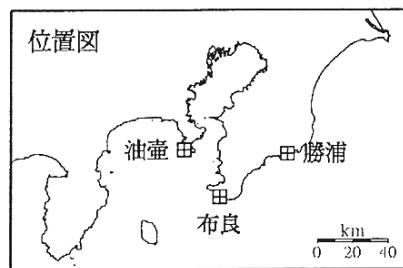
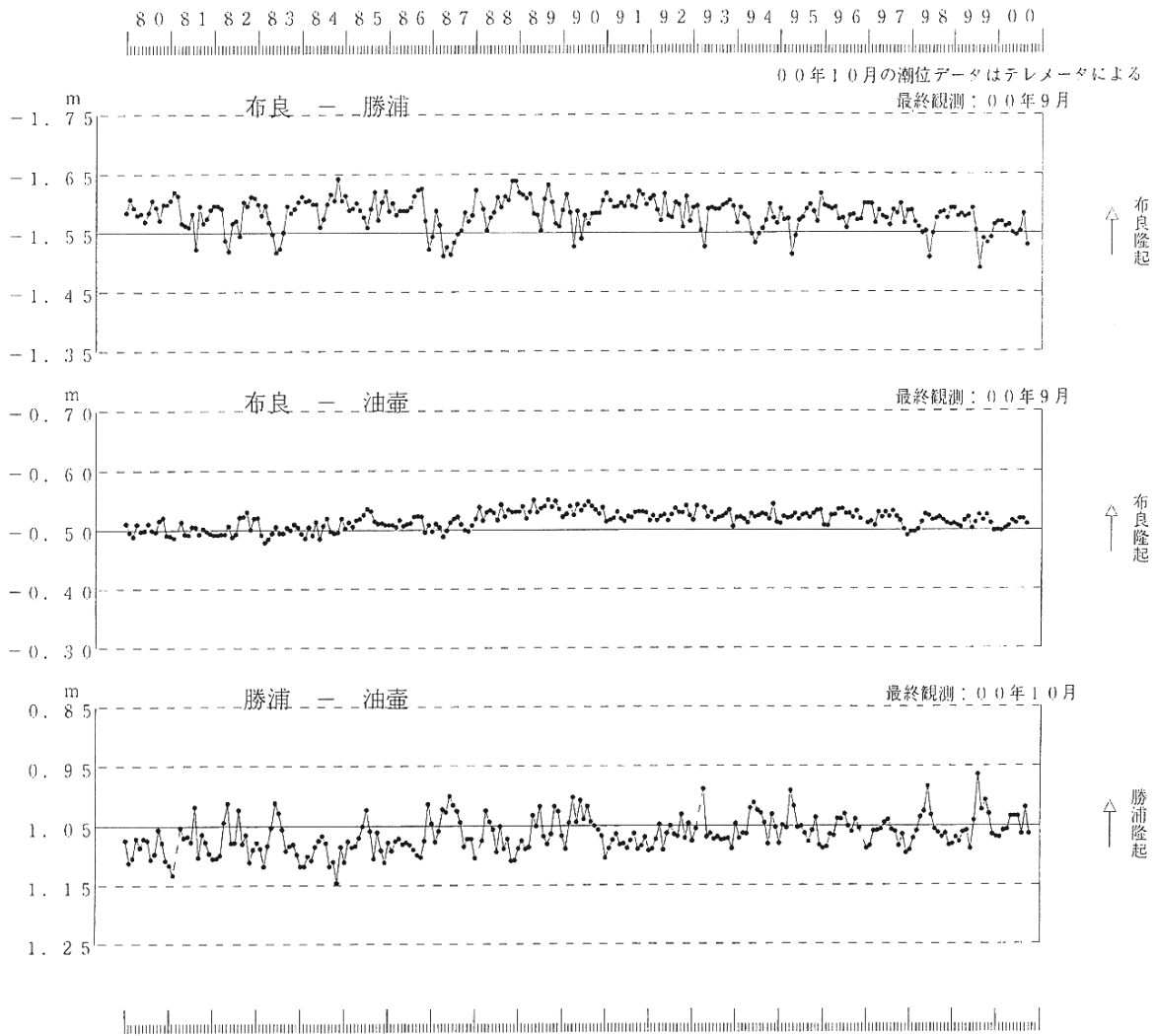
第5図 房総半島南部水準測量結果（館山～和田）

Fig.5 Results of precise leveling in the Southern part of Boso peninsula (From Tateyama to Wada).



第 6 図 房総半島南部の上下変動

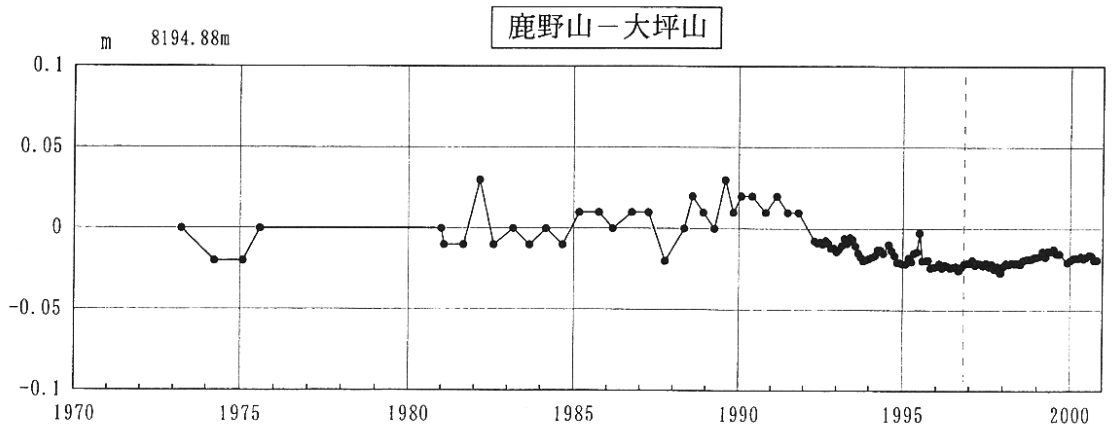
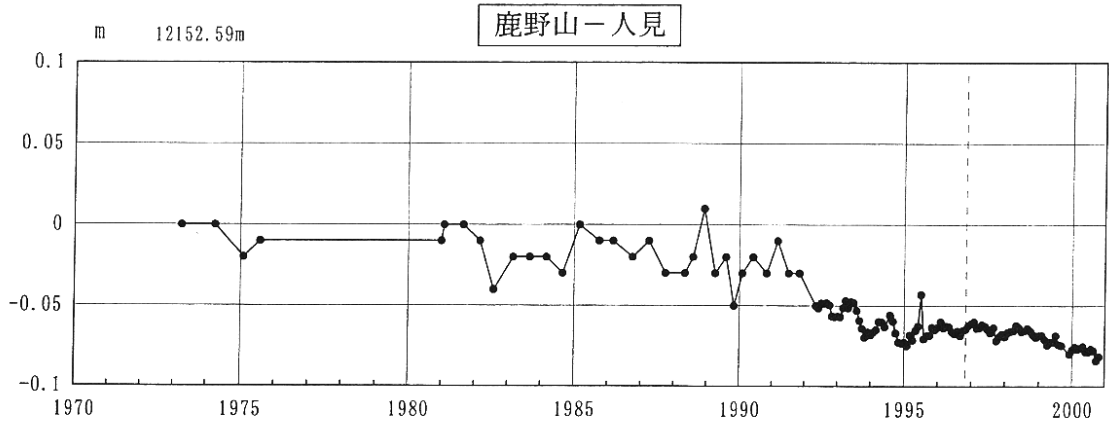
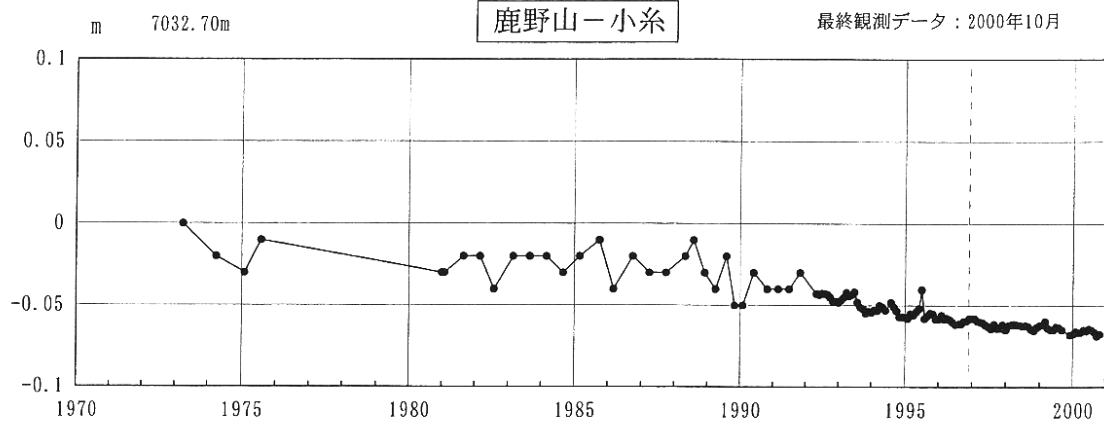
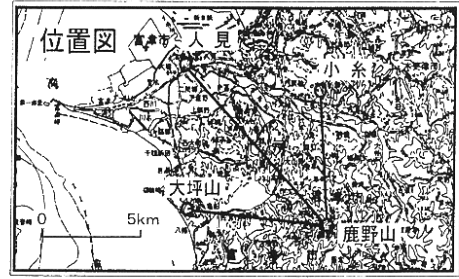
Fig.6 Vertical crustal movements of the southern part of Boso peninsula derived from the results of precise leveling.



第7図 油壺、布良、勝浦験潮場間月平均潮位差

Fig.7 Comparisons of monthly mean values of sea level measured at 3 tide gauge stations in Kanto area.

1992年4月からのデータは月平均値
 1995年10月から器械点移動



第8図 鹿野山精密辺長測量結果

Fig.8 Results of precise distance measurements at Kanozan.